

創立 1980年10月8日



ROTARY CLUB OF SAKAI NORTH

第2640地区 堺北ロータリークラブ週報

事務所 〒590-0024 堺市堺区向陵中町2丁5-10 杉本ビル5-B・Tel:(072)255-1200番

例会日 毎週金曜日 午後0時30分

例会場 PANTARON Tel:(072)228-3988番 (魚太郎直通電話)

URL : <http://www.sakai-kita.jp/>

E-mail : snrc@jasmine.ocn.ne.jp

ガバナー(第2640地区) 辻 秀和(ツジ ヒデカズ)

ガバナー事務所 URL : <http://www.rid2640g.org/tsuji/>

E-mail : tsuji2014-d2640@ivy.ocn.ne.jp

会長:山ノ内修一 幹事:塩見 守 広報委員長:坂田兼則 編集者:笹山悦夫

四つのテスト 言行はこれに照らしてから 1.真実かどうか 2.みんなに公平か 3.好意と友情を深めるか 4.みんなのためになるかどうか

本日の例会

2014年8月22日(金)第1626回

卓話 「お城よもやまばなし」

卓話者 木畑 清 会員

今週の歌 「我等の生業」 「われは海の子」

お客様の紹介

出席報告 会長の時間

委員会報告・幹事報告・SAA報告

今週の歌
「われは海の子」

われは海の子 白波(しらなみ)の
騒ぐ磯辺の 松原に
けむりたなびく 苦屋(とまや)こそ
わが懐しき住(すみか)なれ

次回の例会

2014年8月29日(金)第1627回

「テーブル会議」

前回の例会

2014年8月8日(金)第1625回

卓話 「日本の仏教を学んで」

卓話者 ビマラ・ワンサ様

紹介者 那須 宗弘 会員

今週の歌 「我等の生業」 「涙そうそう」

お客様の紹介

出席報告 会長の時間

委員会報告・幹事報告・SAA報告

○皆出席表彰(8月度)

宇瀬治夫会員(第6回)

小西幹夫会員(第3回)

塩見 守会員(第3回)

<8月8日(金)の出席報告>

会員数 33名

出席会員 24名

欠席会員 9名

ビジター 0名

ゲスト 1名

7月4日(金)の出席率 87.50%



2014-15年度 国際ロータリーのテーマ

「ロータリーに輝きを」

Light Up Rotary

国際ロータリー会長 ゲイリーC.K.ホアン(台湾・台北RC)

卓 話

「日本の仏教を学んで」

ビマラ・ワンサ様

紹介者 那須 宗弘 会員



私はスリランカから参りました「ビマラ・ワンサ」と申します。私はスリランカのキリメティアという村で生まれ 10 歳で出家しました。その時点で親からもらった名前は無くなりスリランカの僧侶が誰でも使う村の名前とビマラ・ワンサという僧侶の名前を合わせてキリメティアネビマラワンサという名前になりました。大学へ入るまでは寺の学校で学び、1978年にスリランカのスリジャヤワルゼネ国立大学に入学しました。その大学を卒業後自分の寺の僧侶の学校の校長として6年間勤め1990年に愛知学院大学へ留学する事が出来ました。そこで世界的に有名な前田恵学先生の下でテラワードと日本の仏教の比較研究をしました。博士課程に入った後、前田先生の紹介で守山ロータリークラブから米山奨学金を頂くことが出来ました。米山奨学生になったお陰で守山ロータリークラブの多くの皆様にお目に掛かることが出来ました。そして卒業後スリランカの私のお寺はロータリーの皆様の応援のお陰で「曙幼稚園」をつくる事が出来ました。その幼稚園は1997年にオープンし今まで多くの卒業生を送り出しました。また私がスリランカへ帰った後もスリランカで起きた2005年のスマトラ沖の津波で大変な時小川ロータリークラブを初め日本の皆様の多大な応援を頂き被害を受けた人々に援助することが出来ました。

大阪の堺北ロータリークラブとの御縁ができたのは那須宗弘師にお目に掛かったお陰です。この先生のご友人が最初にスリランカに救急車を贈って下さる時に手伝いをさせて頂きました。その救急車は今でも病院で使っております。それは直接大統領へ贈られたものです。また私の大学の同級生ラタナサーラさんをリーダーとしたオバママ会では孤児院、幼稚園などいろいろなボランティア活動しております。また那須先生は今回も同じ宗派の花園大学の学生をスリランカ旅行へ連れスリランカで学ばせる計画ももっておられます。私も堺北ロータリークラブがスリランカでのボランティア活動をして下さる事を心から願っています。

スリランカと日本の文化の關係に就きましては宗教との歴史的關係は古くから有りましたが特に深い關係ができたのはジャヤワルデネ大統領の時にできました。大統領は第二次世界大戦後サンフランシスコ講和會議に於いて釈迦の言葉を引用し「憎悪は憎悪によって止むことは無く、慈愛によって止む」と戦争の賠償責任を放棄する旨の演説をしました。日本政府もこのことを非常に感謝しその後病院、テレビ局、国会議事堂の建設、他農業プロジェクトの援助もしました。ジャヤワルデネ大統領は自分の死後日本人に角膜移植したいとの遺言を残しました。それほどに日本を愛していました。話が変わりますがスリランカは30年間の内戦の後今の大統領の指導により2009年に軍隊の力によって戦争は終結しました。スリランカは今では平和な国になりましたが内戦の時、一般の人も犠牲になり国連で今も戦争責任を問われています。日本政府が国連に於いて行った演説の中で「いつまでも過去を問うべきでなく今の平和なスリランカを重視すべきだ」との演説にスリランカ政府は大いに感謝しています。戦争終結の後スマトラ地震の被害後も日本政府は空港、高速道路、水力発電のプロジェクト等に大きな援助してく

れています。

最後に私はスリランカの大学と日本の大学で宗教を学んだので日本の仏教について少し話したいと思います。スリランカは非常に仏教信仰の強い民族が住んでいる国でお釈迦様の教えに従って生活しています。お釈迦様の教えにある「無常」という言葉がスリランカ人に大きな影響を与えています。人生良いことも悪いこともあり浮き沈みは常ですが、どんな時も幸せを感じて生きることができること、これこそがお釈迦様の教え「無常」の教えだと思うのです。私が日本に来て日本の仏教を学び、日本の歴史を知って分かったことはスリランカ人と同じような宗教を持つ人が多かった日本人は戦争が終わった後アメリカの影響で宗教の教えと離れたのではないかと感じます。その結果今では子供のいじめの問題、大人、親や先生を大切にしないこと、簡単に自殺をすること、そのような問題は宗教と遠ざかったことも原因の1つにあるのではないかと思います。私もいろんな国へ行きましたが日本の民族を見て一つ感じることは日本人がお釈迦様の教えと感じているかどうかは別として、釈迦の教えの非常に大切なことに「中道」という言葉が有ります。お釈迦様は出家をする前は贅沢をしました。また出家の後は苦悩の道でした。その結果両方の体験が糧となり悟りへの道が開かれました。悟りのみでなく人生のため「中道」がいかに大切かを説いておられます。日本人の性格の中には、例えば服装、食べ物、住居等に関して私は他の国と比べて非常に「中道」であると感ぜられる部分を見出すのです。

さて、お釈迦様は「仏教とは何か」という問いに三つのことを言っています。一つ、悪いことはしないよう努力する。一つ、出来るだけ良いことをするよう頑張る。一つ、瞑想しながら静かにする。これをすれば本当に仏教を知ることが出来るとあります。いつの世、どんな時にも人生にとって宗教を持つことは非常に大切なことと思います。

会長の時間

「原爆に思う」

会長 山ノ内修一



今から69年前の昭和20年8月6日広島に、8月9日長崎に、原子爆弾が投下されました。

広島で約14万人、長崎では約7万人の犠牲者が出ました。おそろしい人数です。一瞬にして奪われた日常。その理不尽さ・・・。

来週はお盆。原爆の犠牲者の皆さんに、そして堺北ロータリークラブの物故者の皆さんに黙祷を捧げたいと思います。

(・・・黙祷・・・)

「原爆詩人」と言われた峠三吉に「8月6日」という詩があります。原爆の悲惨さを如実に表現しています。

いかなる理由があろうとも原子爆弾は使ってはいけない兵器であり、使わせてはいけない兵器だと思います。

機会があれば、ぜひほかの詩も読んでいただきたいと思います。

「八月六日」

峠 三吉

あの閃光が忘れえようか！

瞬時に街頭の三万は消え
押しつぶされた暗闇の底で
五万の悲鳴は絶え

渦巻くきいろい煙がうすれると
ビルディングは裂け、橋は崩れ
満員電車はそのまま焦げ
涯しない瓦礫と燃えさしの堆積であった広島

やがてぼろ切れのような皮膚を垂れた
両手を胸に
くずれた脳漿を踏み
焼け焦げた布を腰にまとして
泣きながら群れ歩いた裸体の行列

石地藏のように散乱した練兵場の屍体
つながれた筏へ這いより折り重なった河岸の群も
灼けつく日ざしの下でしだいに屍体とかわり
夕空をつく火光の中に
下敷きのまま生きていた母や弟の町のあたりも
焼けうつり

兵器廠の床の糞尿のうえに
のがれ横たわった女学生らの
太鼓腹の、片目つぶれの、半身あかむけの、丸坊主の
誰がたれとも分らぬ一群の上に朝日がさせば
すでに動くものもなく
異臭のよどんだなかで
金ダライにとぶ蠅の羽音だけ

三十万の全市をしめた
あの静寂が忘れえようか
帰らなかった妻や子のしろい眼窩が
俺たちの心魂をたち割って
込めた願いを
忘れえようか！

委員会報告

落語愛好会

第1回落語愛好会 開催のご案内

代表世話人 藤永 誉



この度、堺北ロータリークラブ同好会に「落語愛好会」を新たに立ち上げましたことを皆様にご報告いたします。

活動といたしましては、毎月第4日曜日 13:30～奥野清明堂ホールにて定期的開催致します。(会費1,000円 軽食付き・落語家との懇親会有り)

早速ですが、第1回落語愛好会を下記の通り開催させていただきますので、皆様奮ってご参

加下さいませ。

記

日時：平成26年8月24日（日）13：30～

場所：奥野清明堂ホール（堺区市之町東2丁 山之口商店街内）

会費：1,000円

S A A 報告

那須宗弘会員 今日では元米山奨学生のビマラ・ワンサさんの卓話よろしくお願ひいたします。よろしく拝聴お願ひ致します。

山ノ内修一会員 ワンサさん、本日はよく来てくれました。卓話楽しみにしています。

宇瀬治夫会員 一寸いいことがありました。

嶽盛和三会員 ワンサ様卓話ありがとうございます。

徳田 稔会員 特に何事も有りません。何事も無いのが良い事です。

小西幹夫会員 本日は開店21年目になります。自分なりよくがんばったと思います。

奥野圭作会員 妻の誕生日プレゼント大変有難うございました。

合計 31,000円

メキシコの無料診療所、麻薬戦争を乗り越えて

メキシコ・チワワ州にある小さな町グレーロは、麻薬戦争と不況の影響を受け、国内でも危険な場所とされています。その町に、貧困者に無料で医療を提供しているグレーロ・クリニックという診療所があります。2006年に始まった麻薬戦争が原因で米政府から渡航禁止令が出され、米国からのボランティアが激減し、活動を停止したこともありました。

わが子のため、はるか遠くから

そのような中、ウォルター・ブランソンさん（米国テキサス州、Brazosport ロータリークラブ会員）は、テキサス州とメキシコ北部のロータリークラブと協力し、1983年から支援を続けてきました。診療所では、年に6回、無料で医療ケアを提供しています。毎年、多いときには550件の白内障手術に加え、口蓋裂手術、植皮手術、がん検診、子宮頸がん検査も行っています。無料の医療サービスが行われる週は、いつも1,000人を超える患者が訪れ、はるか遠くから来る人もいます。ウォルターさんは、赤ちゃんを連れてきた一人の母親のことを振り返ります。「この母親は、子どもの治療費が払えないので、はるばるアカプルコ*からやってきたのです」

* 訳者注：アカプルコは、チワワ州グレーロから約2,000km離れています。

大きな資金ニーズ

診療所のニーズは大きく、多くの資金を必要としています。

メキシコのクラブは、2003年に基金を設立。その後、政府の資金援助を受けることができましたが、それも2012年に打ち切られました。現在、メキシコと米国のロータリークラブは資金調達の方法を変え、ロータリー補助金の申請を行っています。また、ほかの団体とも協力しています。

「この活動を知ってもらっただけでも意味がある」と話すのは、ロータリー会員のセルソ・レイエスさん（メキシコ、Torreón ロータリークラブ会員）です。「でも、この場を訪れて、眼科治療や口蓋裂の治療がもたらす大きな変化を見てください。きっと、この活動の本当の素晴らしさを実感できるでしょう」

Daniela Garcia Rotary News 2-Jul-2014